ンポイント

広く利用されている放射

とに異なりますが、 また地域ご あらわれるので、注意 ず、障害 (組織障害) が 生まれた傷は回復でき 中にある臓器や組織に に注意するのと同じよ 度に受けると、体の 大量の放射線を

に備わった修復能力に 量が少ないときは、 が必要です。 放射線の 体 のですね。 タクさん ゆりちゃん

より、受けた傷はほぼ 査 量で決まります。 放射 少 線

ぐらいの放射線なら、 修復能力を持っている ない放射線に対しては 人は

そのほかの毒物と同じ 安全か安全でないかは 命が地球上に誕生した して受け止 ように身体への刺激と 出めます。 生

う。 安と考えて良いでしょ

のは約三十億年前です

ている最小線量として .ーベルトを安全の目 ますので、百ミリ

線

10

線量のスケール Gy (グレイ): 各々の部位における吸収線量 人工放射線 自然放射線 4 がん治療 (治療部位のみ 宇宙から0.4mSv 大地から0.5 mSv の線量) - 白内隨 一時的脱毛 --不妊 (皮膚線量) ドンから1.2mSv 食物から0.3 mSv 眼水晶体の白濁 造血系の機能低下 100 mGy 100 mSv 自然放射線(年間) がんの過剰発生が 認められない ブラジル/ガラパリ 自然放射線(年間) インド/ケララ 自然放射線(年間) 10 mSv 1人当たりの自然放射線 (年間2.4mSv)世界平均 1 mSv 1人当たりの自然放射線 (年間1.5mSv)日本平均 般公衆の年間線量限度 精密检查(1回) 東京―ニューヨーク(住復) 0. 1 mSv 胸のX線 集団検診(1回) 0. 01 mSv 0. 05 mSy 歯科撮影 出典: UNSCEAR2000年報告書。 Sv (シーベルト): がん, 遺伝性影響に対する 防護のための実効線量 ICRP2007年勧告, 日本放射線技師会医療被ばく ガイドラインなどより

資料提供:(独)放射線医学総合研究所

放射線が安全か安

全でないかは量で決ま 10

れています。

できていると考えら

がん治療なども

可

能

放射線で医

療検

生命は放射線に対し

て十分な防御機構が

射線であれば健康に

まります。少量の放 全でないかは量で決

けても安全だといわれ

ている放射線の量はど

放射線が安全か安

国ごとに、

影響はありません。

のくらいですか?

で受ける放射線の量は

酒

も飲みすぎないよう

たり) をがんが検出され

ると考えられています。

は放射線に対して十 在していました。

は今よりも多量に存

生

そのときには放射

な防御機構ができて

ゆりちゃん

地球上

調査や膨大な動物実験 かってきています。 タクさん どにより、よく分 への影響は、疫学的 放射線の します。 ミリシーベルト(一回あ 護委員会(ICRP)一 〇〇七年勧告では、 〇〇%元通りに回 国際放射線防 百